

TOPICS
1岡山大学J-PEAKSシナジーセッション～ク
ライオ電顕・FIB-SEMワークショップ～開催

岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、J-PEAKS事業では、研究基盤の整備・機器共用、技術職員の高度化による研究環境整備を進めています。今回は、3月6日にハイブリッド形式で開催した「J-PEAKSシナジーセッション～岡山大学クライオ電顕・FIB-SEMワークショップ～」について紹介します。

本ワークショップは、2024年2月に中国・四国地域に初導入されたクライオ電子顕微鏡「Krios G4」と、2025年11月に西日本に初導入されたクライオトモグラフィー用クライオプラズマFIB-SEM装置「Arctis」の共同利用を促進し、関連する研究分野の飛躍的發展、また研究者・産業界関係者との連携を深めることを目的に開催しました。学内外の研究者・技術職員・企業関係者など、合計100人以上が参加し、最新の研究の最前線に触れる貴重な機会となりました。

第一部では、クライオ電子顕微鏡及びクライオプラズマFIB-SEM「Arctis」の見学会を実施。参加者たちは、装置の前で熱心に説明を聞き、その仕組みや応用について理解を深めました。



クライオ電子顕微鏡の見学の様子



FIB-SEM装置「Arctis」の見学の様子

第二部は共育共創コモンズにて実施され、那須保友学長が開会のあいさつにおいて、「本ワークショップの目的は、機器共用を通じたネットワーク形成や、関連する研究分野における学術ネットワークの構築にある。」と強調しました。



講演する佐々木氏(左)、石本氏(中央)、安楽氏(右)

その後、本学のJ-PEAKSの取り組みやTCカレッジの紹介、本学のクライオ電子顕微鏡の機器利用方法などの紹介に続き、クライオ電子顕微鏡を活用して革新的な研究開発を行う産学の研究者3人が講演を行いました。北海道大学遺伝子病制御研究所の佐々木諒平氏が「Ribosome脱UFM化機構の構造解析」、横浜市立大学生命医科学研究科の石本直偉士氏が「細菌間における多剤耐性因子伝達機構の構造生物学的研究」、塩野義製薬創薬科学研究所の安楽佑樹氏が「クライオ電子顕微鏡を活用したStructure-Based Drug Design」と題した発表を行い、クライオ電子顕微鏡を活用した研究について異なる視点での話がありました。

また、第三部では、希望者を対象に個別相談会を実施。本学での機器利用やクライオ電子顕微鏡の具体的な活用方法などについて相談があり、学術研究院先鋭研究領域(異分野基礎)の沼本修孝准教授らが丁寧かつ分かりやすく説明し、参加者から高い評価を得ました。



質疑応答の様子



沈所長による閉会の挨拶



個別相談会の様子



○那須保友学長のコメント

本学は、これからの日本を牽引する研究大学を体現すべく、J-PEAKSの取り組みを通して、Well-being社会の実現を目指す取り組みを進めています。

これらを実現するためには、基盤である先端分析計測設備・基盤設備の充実および共用化を図ることが必要不可欠です。今回のクライオワークショップにご参加いただいた方から「クライオ電顕やFIB-SEMの利活用の方法がよく分かった。今後も是非利用したい。」との声を聞いてうれしい限りです。本学は今後も、研究基盤の整備強化とともに機器共用のネットワーク構築に貢献し、岡山大学長期ビジョン2050の実現を加速させるだけでなく、我が国全体の研究力向上を牽引していきます。



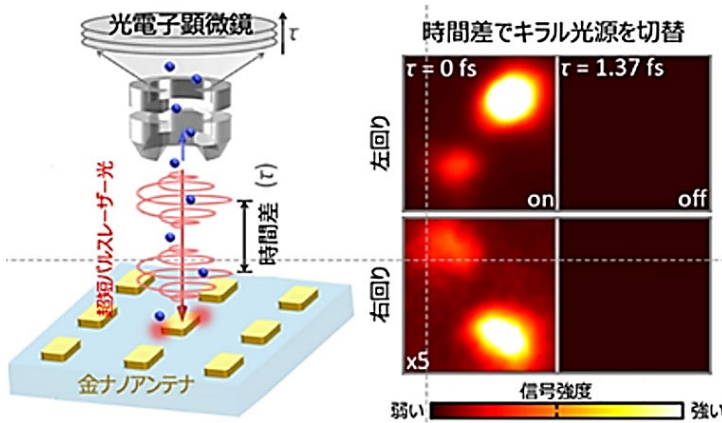
TOPICS

2

“分子の右と左”を見分ける光を超高速で切り替えーナノサイズのアンテナで実現ー

岡山大学異分野基礎科学研究所の三澤弘明教授は、中国・東南大学および北京大学との国際共同研究により、分子の「右手型・左手型」の違いを見分ける光(キラル光)を、分子サイズの一点に局在させ、かつ超高速にON/OFFや反転切替できることを実証しました。

今後、医薬・生命科学分野における鏡像異性体の識別や超小型・超高速光デバイスへの応用が期待されます。J-PEAKS事業の取組を担う先鋭研究者のひとりである三澤教授の活動にご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1509.html

TOPICS

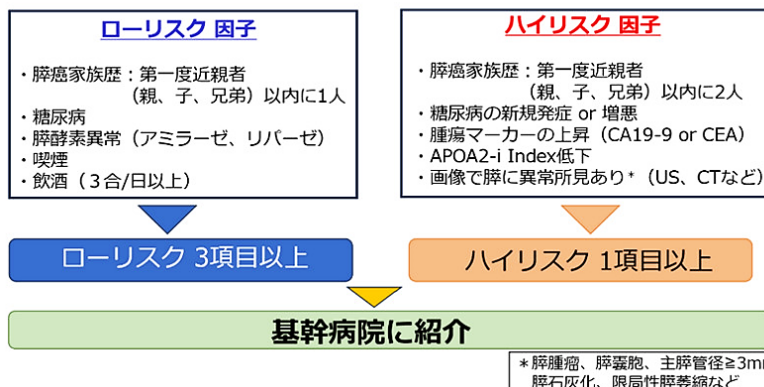
3

岡山早期膵癌プロジェクト(MOMOTARO プロジェクト) 開始

岡山大学病院は、膵がんの早期発見を目的とした「岡山早期膵癌プロジェクト(MOMOTAROプロジェクト)」を2026年4月1日から開始しました。本プロジェクトでは、岡山大学病院を中心に、岡山市内の基幹病院、開業医、医師会、岡山市が連携し、膵がんのリスク因子の周知と、リスクのある方を専門医療機関へつなぐ体制を構築します。

本学は、Well-being社会の実現に向けて、地域連携を活かした取り組みを通じ、膵がんの早期発見と市民の健康寿命の延伸に貢献します。

紹介基準



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1535.html

TOPICS
4

事務・技術職員のスタートアップ支援力向上へ 大学発スタートアップ支援人材育成プログラムを開催

本学の研究・イノベーション共創機構スタートアップ・ベンチャー創出本部は、事務職員と技術職員を主な対象とした「大学発スタートアップ支援人材育成プログラム」を開催しました。



本プログラムは、研究成果の社会実装を支える学内人材の育成を目的とし、全3回の講義と演習を通じて、GAPファンド申請や市場分析、研究構想を事業化の視点で捉える方法などを学び、研究者に伴走する支援者としての視点を養いました。

本学は今後も、事務職員や技術職員の高度化の取組を推進し、社会に新たな価値を創出するナレッジワーカーなどの高度専門人材の育成と支援体制の強化を進めます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15209.html

TOPICS
5

松尾泰樹 内閣官房政策参与が岡山大学を訪問～最先端研究装置「Arctis」や岡山大学病院などを視察～

内閣官房政策参与の松尾泰樹氏が本学を訪問し、津島キャンパスおよび鹿田キャンパスにおいて、最先端の研究・医療施設を視察しました。津島キャンパスでは、異分野基礎科学研究所や共創イノベーションラボ(KIBINOVE)に整備されたクライオ電子顕微鏡などの共用研究機器を見学し、J-PEAKSによる研究基盤の構築や共用体制について意見交換をしました。続いて岡山大学病院を訪問し、IVRセンターやICU等を視察し、先進的な医療技術への理解を深めるとともに、高度で専門的な医療提供体制を確認されました。

本学は、技術職員の高度化、研究機器の共用化を推進し、研究・イノベーション創出を加速します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15242.html

TOPICS
6

水圏環境科学の最前線を共有「第2回水圏環境科学セミナー」を開催

本学は、「第2回水圏環境科学セミナー」を津島キャンパス共創イノベーションラボ(KIBINOVE)にて開催しました。本セミナーは、本学高等先鋭研究院と東京大学大学院工学系研究科附属水環境工学研究センター信州大学／東京大学連携分室との共催で実施されました。学術誌編集者による特別講演に加え、水と環境をテーマとした研究講演が行われ、分野を超えた活発な議論が展開されました。

本学はJ-PEAKSの取組のもと、今後も分野横断的な研究交流を推進し、新たな知の創出につなげていきます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15206.html

TOPICS

7

未来医療創発研究所の看板除幕式を開催

本学は、2026年4月に「未来医療創発研究所」を新たに設置し、岡山大学鹿田キャンパス臨床研究棟において、看板除幕式を挙行了しました。同研究所は、これまで本学が培ってきた臨床研究、再生医療研究、放射性医薬品研究の強みを統合し、異分野連携による先端的かつ融合的な医療技術の創発を推進することを目的とし、健康寿命の延伸や医療技術の世界展開の実現を目指しています。

同研究所の設置を踏まえ、J-PEAKS事業をさらに加速させ、未来医療の創出に向けた取り組みを推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15272.html



TOPICS

8

香川大学と本学惑星物質研究所において地域中核・特色ある研究大学の取り組み「中四国・播磨HeReNet」の回収(フェーズ1)を開始

本学は、香川大学および本学惑星物質研究所において、「中四国・播磨ヘリウムリサイクル事業ネットワーク(中四国・播磨HeReNet)」におけるヘリウムガス回収(フェーズ1)を開始しました。本事業では、核磁気共鳴装置(NMR)から蒸発する希少資源であるヘリウムガスを回収・再利用することで、研究機器の安定的な運用と維持費の軽減を図ります。

本学は、開かれた地域中核・特色ある研究大学として、「中四国・播磨HeReNet」および「HeliGet」(使用済み設備などから液体ヘリウムを回収)を通じて、学内のみならず近隣の大学や研究機関等に液体ヘリウムを供給し、研究・開発の裾野を大いに広げることを目指します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15233.html



TOPICS

9

私立大学と国立大学のニーズ・ノウハウを共有：研究開発マネジメント人材の育成と運用について東京理科大学との会合を開催

本学は、大阪大学とともに東京理科大学神楽坂キャンパスを訪問し、研究開発マネジメント人材の育成と運用に関する会合を開催しました。本会合は、文部科学省「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」の一環として、今後の円滑な事業運営と連携強化を目的に実施されたものです。当日は、研修提供内容や人事制度、キャリアパスに関する説明のほか、国立大学と私立大学それぞれのニーズやノウハウ、課題について意見交換が行われました。

本学は今後も多様な大学との連携を通じて、地域の中核となる研究大学として研究開発マネジメント機能を拡充します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15234.html



TOPICS
10

令和7年度TCカレッジ認定式・医工系TCコース初のTC2人が認定、TM課程5人も認定

東京科学大学大岡山キャンパスにおいて、「令和7年度TCカレッジ認定式」が開催されました。本学からは、総合技術部医学系技術課の職員2人が、医工系TCコースとしては本学初となるテクニカルコンダクター（TC）に認定されました。また、5人の技術職員がテクニカルマスター（TM）に認定され、本学のTM認定者は計8人となりました。認定式では、修了者から学びの成果や今後の抱負が述べられました。

本学は今後もTCカレッジ等を活用し、研究者の真のパートナーとして社会を変革していく高度専門技術職員の育成と高度化を戦略的に推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15235.html

TOPICS
11

URA体制の強化促進から見る研究開発マネジメント人材の育成と運用について横浜市立大学との会合を開催

本学は、横浜市立大学において、研究開発マネジメント人材の育成と運用に関する会合を開催しました。本会合は、文部科学省「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」の一環として、今後の事業運営の高度化や連携強化を目的に実施されたものです。当日は、URA体制の強化促進を中心に、本学の研修提供内容や横浜市立大学におけるURA制度の現状、学内拠点形成と人材配置の在り方などについて意見交換が行われました。

本学は今後も、他大学との連携を通じて研究開発マネジメント人材の育成・運用の高度化を推進し、それを生かす柔軟な組織・制度改革を進めていきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15236.html

TOPICS
12

岡山大学「大学院修学支援制度（2026年度後期）」認定式を挙行



本学は、津島キャンパス本部棟において、岡山大学「大学院修学支援制度（2026年度前期）」認定式を挙行しました。本制度は、J-PEAKSの取組の一環として、職員の高度化を目的とした本学独自の取り組みであり、今回は、事務職員および教育研究系技術職員の計6人が認定されました。那須保友学長からは、専門性を高め研究者と対等に活躍する人材として、将来の大学経営を支える存在への期待が寄せられました。

本学は、高度化された職員が研究大学を運営するという自覚と自信を育み、より良い大学法人経営を推進していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15289.html

TOPICS
13

視覚記憶の長期持続性～わずかな経験が認知と行動を生み出す～

岡山大学学術研究院教育学域の寺澤孝文教授と日本赤十字広島看護大学の益岡都萌講師らによる研究グループは、人が数秒間見ただけの視覚情報を、非常に詳細なまま少なくとも3週間保持できることを実験で明らかにしました。本研究では、言語化困難な感覚的な経験が長期的に記憶として残り続け、その後の認知や行動を潜在的に影響を及ぼすことが示されました。本成果は、教育や学習における「経験」の重要性を科学的に裏付けるものであり、今後、視覚処理における記憶の影響解明への発展が期待されます。

本学では、J-PEAKS事業を通じ、地域の中核となる研究大学として、新たな知の創出を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1521.html

TOPICS
14

三朝国際シンポジウム「MISASA-IX」を開催－火星科学の最前線と産学官交流を促進－



本学高等先鋭研究院を構成する惑星物質研究所は、鳥取県倉吉市において、J-PEAKS共催のもと、国際シンポジウム「MISASA-IX」を開催しました。本シンポジウムは、火星科学の最前線に関する研究成果の共有と、今後の火星探査や研究基盤の展望について議論することを目的に開催されました。会場では、火星の生命環境や表層・内部ダイナミクスに関する講演、ラボツアー等が行われ、分野横断的な活発な議論と交流が行われました。

本学は今後も、国際連携と産学官連携を通じて火星科学の発展と新たな研究創出を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15176.html

TOPICS
15

材料科学をテーマにしたJ-PEAKS特別セミナー「New Horizons in Advanced Materials Science」を開催

本学は、共創イノベーションラボ(KIBINOVE)において、J-PEAKS特別セミナー「New Horizons in Advanced Materials Science」を開催しました。本セミナーは、学術研究院先鋭研究領域(異分野基礎科学研究所)の仁科勇太教授をホストとし、材料科学分野の国内外の第一線研究者を招き、カーボンナノ材料やハイブリッド材料、計算科学を活用した材料研究の最新動向が共有され、活発な意見交換が行われました。

本学は今後もJ-PEAKSの推進を通じ、世界に貢献する革新的な材料研究を発展させます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15257.html

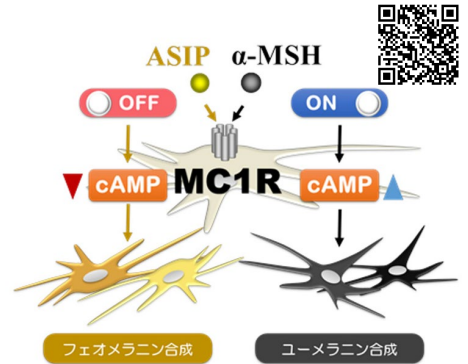
TOPICS
16

カラスはなぜ真っ黒？－黒さの秘密は「止まらないスイッチ」にあった

岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域の竹内栄教授、相澤清香准教授らの研究グループは、カラスの羽がなぜ全身にわたり黒いのかについて、羽の色を制御する受容体「MC1R」に着目し、ホルモンがなくても高い活性を保ち、黒色系のユーメラニンを作り続けていることを細胞実験で実証しました。本成果は、野生の黒い鳥で初めてその仕組みを実験的に示したもので、生き物の色の収斂進化に関する重要な発見といえます。

本学ではこのような新たな知の創出に向けて、J-PEAKS事業を活用し、研究者支援や拠点形成の取り組みを推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1536.html

TOPICS
17

異分野基礎科学研究所の菅倫寛教授と中島芳樹助教、惑星物質研究所の石井貴之准教授が令和8年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞！

岡山大学異分野基礎科学研究所の菅倫寛教授および中島芳樹助教が、令和8年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞(研究部門)」を受賞しました。また、惑星物質研究所の石井貴之准教授が「若手科学者賞」を受賞しました。菅教授らの研究は、光合成における水分解反応の仕組みを解明し、将来の人工光合成やクリーンエネルギー創成につながる成果として高く評価されました。石井准教授の研究は、高圧実験による地球深部の構造や物質循環の解明に新たな知見をもたらし、惑星物質科学分野の発展に大きく貢献しました。

本学は今後も優れた研究者の育成と研究力強化を推進し、社会変革へつなげます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15270.html

TOPICS
18

学術研究院環境生命自然科学学域の西村伸一教授が岡山市消防局「自然災害支援アドバイザー」に選任

本学は、岡山市消防局が令和8年4月から導入した県内初の「自然災害支援アドバイザー制度」に協力し、西村伸一教授が「自然災害支援アドバイザー」に選任されました。

本制度は、地震や土砂災害などの自然災害発生時に、専門家の助言を受けることで、安全かつ確実に迅速な消防活動を行うことを目的としています。地盤工学を専門とする西村教授は、災害時の地盤や斜面の状況評価などについて専門的知見を提供します。

本学は、Well-being社会の実現のため、地域社会の安全・安心の確保と防災力の向上に貢献します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15217.html



TOPICS
19

国際産学連携やプロジェクトマネジメントを習得できる研究開発マネジメント人材の育成に関する会合をPMIアジアパシフィック(シンガポール)で実施

本学は、シンガポールに所在するProject Management Institute (PMI) アジアパシフィックを訪問し、研究開発マネジメント人材の育成に関する会合を実施しました。本学は文部科学省「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」における研修提供機関として、プロジェクトマネジメントに関する研修をPMI日本支部およびPMIアジアパシフィックと連携して進めています。今回の会合では、研修に係る国際イベントの企画・運営や国際資格「CAPM」の取得方法などの意見交換を行いました。



本学では、今後も様々なステークホルダーとの連携を強化し、ナレッジワーカーなどの高度専門人材の育成を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15281.html

TOPICS
20

愛媛大学の仁科学長らが来学 J-PEAKSやスタートアップ・エコシステム拠点都市形成について意見交換

愛媛大学の仁科弘重学長らが本学津島キャンパスを訪問し、共創イノベーションラボ (KIBINOVO) において意見交換を行いました。冒頭ではKIBINOVOの施設見学を行い、産学官連携や共創活動の拠点としての役割について理解を深めました。その後の意見交換では、本学によるJ-PEAKSを活用した研究力強化の取り組みや、愛媛大学の地域に根ざした活動について紹介がありました。さらに、スタートアップ・エコシステム拠点都市形成に向けた連携強化や、アクセラレーションプログラムの共同実施の可能性について意見が交わされました。今回の訪問は、大学間の相互理解を一層深めるとともに、今後の連携の発展に向けた有意義な機会となりました。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15274.html

TOPICS
21

技術職員のキャリアの強化促進へ～わが国の大学で初めて名誉技監が誕生！「岡山大学名誉教授及び名誉技監称号授与式」を挙げる～



本学は、津島キャンパス本部棟において、令和8年度「岡山大学名誉教授及び名誉技監称号授与式」を挙りました。名誉技監の称号は、本学技監制度のもと、高度な専門技術と卓越したマネジメントにより大学の運営・発展に大きく貢献した者に授与されるもので、わが国初の制度です。本年度は3人が名誉技監として称号を授与されました。

本学では、研究大学として従来の枠組みにとらわれず、研究者の真のパートナーとして活躍する技術職員の育成・高度化を推進します。

岡山大学技術統括監理本部



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15279.html

TOPICS
22

2027年度入学生からの授業料適正化の方針案～今後、ステークホルダーからのご意見を参考に適正化を進めます～

本学は、定例記者発表において、「2027年度入学生からの授業料適正化の方針案」を公表しました。本学では世界と伍し、かつ地域の中核となる研究大学として社会とともにあり続けることを目指し、将来にわたり、学生のための教育費用を十分に確保し、教育・研究環境をさらに改善・向上させ、大学の国際化等を推進するため、順次、学年進行での授業料適正化を実施することとし、案を検討しました。なお、在学生は対象外です。今後はステークホルダーとの意見交換を行い、いただいたご意見を踏まえて、改めて授業料適正化に係る方針案を提示し、審議する予定です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15222.html

TOPICS
23

岡山大学病院に寄付講座「遠隔地域薬学講座」を開設～中山間地域の薬剤師不足解消と地域医療DX推進へ～

岡山大学病院は、岡山大学病院薬剤部に寄付講座「遠隔地域薬学講座」を新たに開設しました。本講座は、岡山県真庭市の医療法人美甘会勝山病院からの寄付により設置され、遠隔・中山間地域を主なフィールドとして、薬剤師不足の解消や遠隔医療やオンライン服薬指導、医師から薬剤師へのタスクシフトなど、地域医療DXの推進を目的としています。

本学がこれまで培ってきた臨床薬学の専門性と教育研究機能を地域医療の現場と結び付けることで、持続可能な地域医療の実現と住民の健康増進に貢献し、開かれた地域中核・特色ある研究大学として、*Human Health*及び*Community Health*を先導します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1524.html

TOPICS
24

令和7年度岡山大学発ベンチャー称号授与式を挙行



本学は、令和7年度「岡山大学発ベンチャー称号授与式」を挙行了しました。本制度は、学生・教職員による起業や、本学の研究成果を活用したベンチャー企業に「岡山大学発ベンチャー」の称号を授与し、継続的な支援を行うことを目的として令和3年度に創設されました。令和7年度は審査を経て新たに2社が認定され、那須保友学長から各代表者へ称号盾が授与されました。

本学では、今後も教職員や学生による起業を後押しし、イノベーションの促進と研究シーズの社会実装を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15277.html

TOPICS
25

「炭素を資源として循環する」をテーマにカーボンニュートラル拠点事業シンポジウムを開催

本学は、「炭素を資源として循環する」をテーマとした「岡山大学カーボンニュートラル拠点事業シンポジウム」を開催しました。本シンポジウムは、地域特性を踏まえたカーボンニュートラル社会の実現に向け、産学官の連携による具体的な方策を議論することを目的として実施されました。自治体や企業、大学関係者らが参加し、CO₂分離回収技術やコンビナート連携、資源循環型事業の事例紹介やパネルディスカッションが実施されました。

本学では、今後も地域と地球の未来を共創し、世界の核心に寄与する研究大学を目標に、Planetary Health(地球と生態系の健康)の実現に向けて、新たな知の創出や新技術開発を推進します。

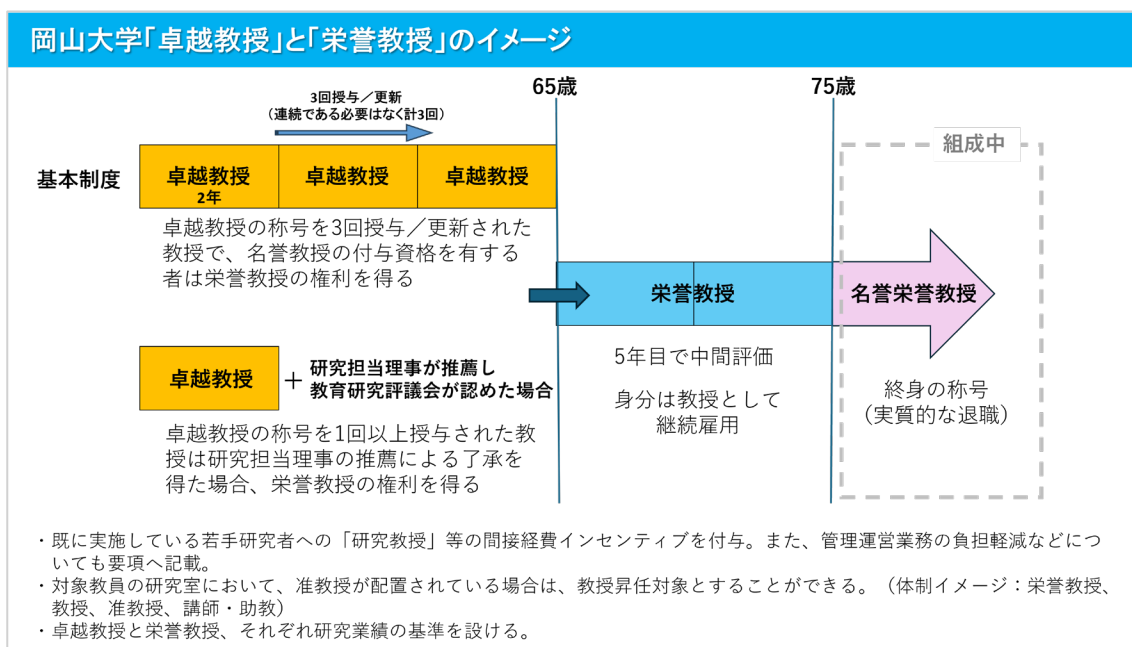
参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15254.html

TOPICS
26

岡山大学シニア・ミドル研究者支援パッケージ第1弾「岡山大学栄誉教授・卓越教授の新設」～75歳まで定年延長、研究活動が続けられる制度～

本学は、定例記者発表において、シニア・ミドル研究者を対象とした新たな研究者支援施策として、「岡山大学卓越教授制度」および「岡山大学栄誉教授制度」の新設を発表しました。

卓越教授制度は、J-PEAKS事業の取り組みの一つとして制定されたもので、優れた研究業績を有する教授を対象とし、研究活動に一層専念できる環境の整備を目的に、間接経費のインセンティブ付与や管理運営業務の負担軽減などを行う制度で、認定期間は2年間とされています。卓越教授の認定を通算3回受け、かつ名誉教授の付与資格などの所定の条件を満たした場合には、65歳から75歳まで研究活動を継続できる「栄誉教授」の称号付与の権利が得られ、実質的な定年延長が可能となります。本制度は、若手研究者からシニア研究者まで、キャリアの各段階に応じた切れ目のない支援体制を構築することを目指すもので、わが国でも先駆的な取組です。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15312.html

TOPICS
27グローバル卓越人材招へい研究大学強化事業
(EXPERT-J)採択

本学は、科学技術振興機構(JST)が実施する令和8年度「グローバル卓越人材招へい研究大学強化事業(EXPERT-J)」に採択されました。本事業は、海外で活躍する優秀な若手研究者を世界水準の処遇で招へいし、国際的な研究力の強化と定着を図るものです。本学は「医療系キャンパス・未来医療創発研究所を中心とした高度国際頭脳循環・研究特区構想」を提案し、採択に至りました。

J-PEAKS事業と本事業とのシナジーにより、研究大学にふさわしい国際頭脳循環をさらに加速させます。

岡山大学長

法定諸会議・大学経営戦略会議



国際戦略特区

本学の制度の枠を超える制度改革、規制緩和、環境整備、優遇措置を実施し、海外の優秀な研究者が、世界水準の処遇、研究環境で卓越的な研究を進化させるとともに、学内の研究者等に相乗効果・国際頭脳循環を与え、もって本学の強みの研究分野が研究界の国際トップサークルを先導することを目的とする。

【対象者】

- EXPERT-J (グローバル卓越人材招へい研究大学強化事業)
- RECTORプログラム (大学改革促進のための国際研究拠点形成 - 海外の優れた研究者招へい-)
- その他学長が認める海外トップ研究者

【推進体制】

- 特区事業統括：窪木拓男 研究担当副理事 (学術担当)
- メンター：受入外国人研究者担当教員
- 国際戦略特区推進チーム
 - ・ 国際教育戦略担当副理事、企画部国際企画課
 - ・ 学務部学務企画課、国際教育推進課
 - ・ 研究イノベーション共創管理統括部、高度専門職 (URA等)
 - ・ 総務部人事課、財務部、総合技術部
 - ・ 外国人研究者所属部局等

トップレベル外国人研究者を国際戦略特区に集積

学術研究院・先鋭研究領域等 (PI、ポスドク、博士学生等)

国際戦略会議

本学の国際化推進にあたり、全学的な国際戦略を企画・立案し、効率よく組織的な展開を図るため、国際関連の課題全般について審議する会議体として設置。全学による部局横断的な国際関連の取組について、迅速かつガバナンス上、適切な意思決定を行う。(プロジェクトに際し、アジャイルな体制で進捗管理、意思決定を行う。)

【構成員】

議長 (学長 兼 研究担当理事)、副議長 (教学担当理事)
構成員 (企画・評価・総務担当理事、グローバル・エンゲージメント担当副学長 研究担当副理事、国際教育担当副学長、その他案件に応じて所掌部局長等)

【具体例】

- 数値目標の設定、レビュー
- 留学生受入促進の戦略としての全学対応
- 学生・教職員の国際的な能力向上施策の検討
- 国際交流協定に関わる方針
- 授業料不徴収プログラム
- 海外特任大使、海外特別教授
- 海外トップ研究機関等との共同研究
- 海外大学との教育連携の促進・大学院教育

【プロジェクト例】

- ソーシャルインパクト創出 (SI)事業に関するプロジェクトチーム
- SI事業コアメンバー会議
- インドプログラム実施会議 (仮)
- 海外研究機関との連携会議 (仮)
- 大学院教育の国際化会議 (仮)

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15323.htmlTOPICS
28

大学経営を担うことができる研究開発マネジメント人材の育成と運用について岩手大学との会合を開催

本学は、大阪大学とともに岩手大学上田キャンパスを訪問し、研究開発マネジメント人材の育成と運用に関する会合を開催しました。本会合は、文部科学省「研究開発マネジメント人材に関する体制整備事業」の一環として、円滑な事業実施や連携強化を目的に行われました。当日は、研修提供内容や研修生のキャリアパス、技術職員を含めた人材活用の在り方等について活発な意見交換が行われました。

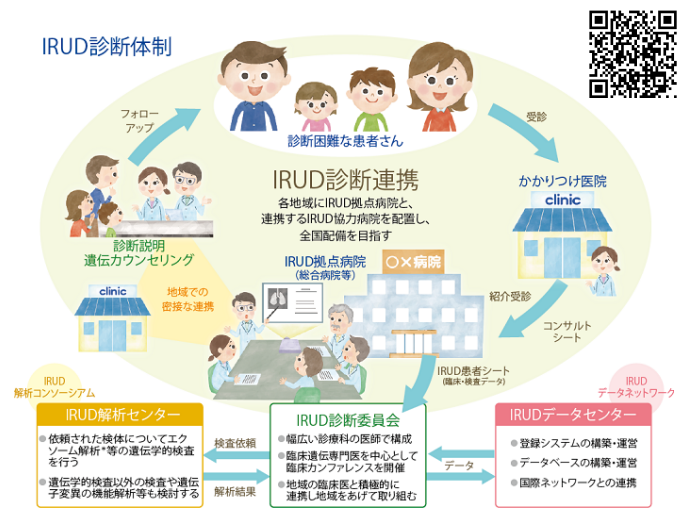
本学は、職員の高度化や研究開発マネジメント機能の拡充に向けて、関係機関との連携を深め、研究開発マネジメント人材の育成・運用の高度化を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15199.html

原因不明の病気 遺伝子解析で解明へ～岡山大学病院がIRUD拠点病院に～

岡山大学病院は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)が推進する「未診断疾患イニシアチブ(IRUD)」の拠点病院として新たに参画します。IRUDは、長年原因が分からない希少疾患や難病の患者を対象に、全国の大学病院や研究機関が連携し、遺伝子解析等を用いて病気の原因解明を目指す事業です。拠点病院となることで、中国・四国地域の未診断疾患の診療・研究体制が強化され、患者や家族への新たな診断機会の提供が期待されます。

開かれた地域中核大学として、地域医療機関と連携し、未診断疾患研究の発展に貢献します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1518.html

イテオシの研究設備

生体分子間相互作用解析装置
NanoTemper社製 Monolith (RED/MOX)

Monolith は、Spectral Shift (SpS) およびマイクロスケール熱泳動 (MST) 技術を用いた分子間相互作用解析装置です。SpS では、蛍光標識したサンプルとリガンドの希釈系列を2種類の波長で測定し、その蛍光比の変化から結合親和性 (K_d) を算出します。MST では、熱勾配による分子の移動 (熱泳動) と、加温に伴う蛍光減衰 (TRIC) を解析し、結合の有無や親和性を自動的に評価します。これら2つの測定法を組み合わせることで、タンパク質や低分子有機化合物だけでなく、イオンからリボソームまで幅広い分子を対象に K_d を迅速かつ高精度に測定できます。また、細胞抽出液、血清、膜タンパク質などの解析例があります。



サンプルの固定化を必要とせず、溶液中で測定できるため、生理的条件に近い環境で解析できます。さらに、必要サンプル量が少ない、1解析あたり約10分と測定時間が短いなど操作性にも優れています。

研究設備機器共用システム「コアファシリティーポータル (CFPOU)」の以下のURLから詳細を閲覧可能です。

J-PEAKSの取組として、大型分析装置等の中四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しています。

【管理者】

資源植物科学研究所 新屋友規
総合技術部 柏野美帆・北條優子



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp

参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1425>